

2026年度 事業計画

はじめに

日本経済は、緩やかな回復基調を維持しつつも、物価上昇や人手不足、地域間格差など複合的課題は依然として続いており、企業においては、持続可能な事業運営に向けた経営体制の強化が求められている。

健診・検査事業を取り巻く環境は、人口が減少し少子高齢化が進むなか、国民の健康意識の高まりや国等による制度改革、機器や試薬の技術進歩などを背景に受診率の向上や付加価値サービスの拡充が重要となっており、生活習慣病の早期発見や重症化予防に資するオプション検査の多様化が進んでいる。また、社会のデジタルシフトが加速する中でDX化やAI活用の動きが強まってきており、健診機関においても効率化や差別化のためのデジタルツール導入が進んでいる。

こうした健診ニーズの高度化に対応するため、当協会では健診・検査の質の標準化と付加価値向上を目指し、公益社団法人日本人間ドック・予防医療学会 健診施設機能評価の認定に向け、体制整備や運用の見直し等必要な準備を着実に進めていく。また、学校検尿における自動分析を2026年度から開始し、精度の向上及び業務の効率化を図っていく。さらに、引き続き予防医学フォーラム等セミナーの開催を通じて、予防医学に関する知識の普及啓発に取り組む。

事業面では、腸内細菌検査、食品検査および環境測定事業について、今後の事業環境や経営資源の配分を踏まえ、中長期的な視点で事業の見直しを検討していく。また、神戸市子宮頸がん検診において、制度動向に注視しつつHPV検査単独法の導入に向けた準備を進めていく。

経営面では、2026年度予算は黒字ではあるものの、人件費・物価高騰に伴う経費の増加が経営に影響を及ぼすとともに、将来的には施設の大規模修繕も控えており、より一層の経営効率化が求められる状況にある。

当協会としては、事業の効率的な運用による生産性向上を目指すため組織体制の見直しを図るとともに、精度・サービスの向上及び経費の抑制に努め、早期の経営基盤の安定を目指していく。そして今後も役職員一丸となって、予防医学事業の進展に努め、県民・市民の疾病予防と健康増進に寄与するという公益財団法人としての当協会の使命を果たしていく。

事業の概要

当協会は、行政諸機関や地域医療機関及び保健機関との密接な協力関係のもと、各種健診・検査、健康支援及び健康教育等を行い、県民の疾病予防と健康増進に寄与することを目的に、密接不可分である次の1から4の公益目的事業を実施する。

1. 疾病予防に関する知識の普及・啓発事業

(1) 広報・情報提供事業

①機関紙「あすの健康」の発行

予防医学の知識の普及・啓発や健康づくりに関連する情報を広く提供することを目的として、様々な疾患をテーマに、専門医からの解説を一般の方々にわかりやすくまとめた“からだの話”や健康づくりに役立つ情報を中心に構成した健康情報誌「あすの健康」を発刊する。

年4回の発行で、のべ12,000部を、顧客・関連事業所・地方公共団体・医師会・関係機関等に提供するとともに、講演会等の普及啓発活動の場等で広く県民に配布する。環境保護の観点より、健康保険組合・県内の学校等にはこれまで紙媒体で配布していたものを二次元コードから閲覧できるようにし、今後も順次、紙媒体による配布は減らしていく。

②ホームページでの情報提供事業

利用者が使いやすいホームページにするとともに、疾病予防や健康増進についての情報を積極的に提供する。また、機関紙「あすの健康」に掲載する医療情報や当協会が開催する講演会の録画配信等を通して、県民が容易に健康情報を入手できるようにする。公式ブログ等を利用し、協会の活動状況をリアルタイムで発信する。

(2) 講演会開催、講師派遣、普及・啓発活動

①講演会の開催

(ア) 予防医学フォーラム 2026年11月14日(土) 神戸新聞松方ホールにて開催予定

県民一人ひとりが自己の健康について考え、予防医学の重要性について理解を深めていただく機会として開催する。様々な分野の第一線で活躍されている方を講師として迎え、病気に対する理解や、疾病予防の話題にとどまることなく、「生きることと健康」を主テーマに開催する。また、その講演内容を広く県民に伝えるため、当日の講演を収録し、動画での配信やPR記事として新聞に掲載する。

(イ) いきいきライフセミナー 2026年9月12日(土) 神戸新聞松方ホールにて開催予定

県民一人ひとりが健康で文化的ないきいきとした生活を送ることができるよう、各界の方々を講師として迎え、広く健康の話題や生きがいをテーマに開催する。また、予防医学フォーラム同様に

動画配信や新聞掲載を行い、広く県民に伝える。

(ウ) がんをよく知るための講座 1回開催予定

日本人の死因トップであるがんについて、予防・早期発見、治療技術等の知識の普及啓発を目的とし、各分野の専門医師を講師に迎え、県民向けの講演会を開催する。例年は2回開催しているが、テーマががんに限られるため1回開催とし、疾病の予防や治療について幅広いテーマを設定できる健康科学セミナーに1開催分を振り替える。

②講師派遣

地方公共団体、健康保険組合、地域団体等が開催する講演会へ医師、保健師、臨床検査技師、管理栄養士等を講師として派遣する。

③普及・啓発活動

NPO法人や行政と連携し、「母の日乳がん検診街頭キャンペーン」への参加や「ピンクリボンフェスティバル」神戸推進委員会の一員としての企画運営への参加を通して、乳がん検診受診促進のための啓発活動を行う。

その他、地方公共団体や各種団体が主催する「がん検診促進キャンペーン」や健康関連のイベントに積極的に参加する。

2. 疾病予防のための健康診断及び検査事業

(1) 地域保健

①特定健康診査及びがん検診

県下の自治体から委託を受け、特定健康診査、自治体独自の後期高齢者健診・若年者健診等を拠点会場において集団健診で実施する。自治体以外では、集合契約に基づく各種健康保険組合の被扶養者等の特定健康診査を実施する。休日の健診実施や胃がん・乳がん検診との同日実施等受診者サービスの向上を図り、がん検診を含めた受診率の向上に努める。

神戸市の市民健診会場においては、過去に石綿にばく露した可能性のある方に対し、質問票及び胸部X線の結果に基づき、健康被害への不安をやわらげ、健康状態の確認及び健康管理に役立てる機会を提供する「石綿読影の精度に係る調査」を引き続き実施する。

胃がん・乳がん検診は、通年で地域巡回により実施する。胃がん検診については、休日の検診実施や会場までの交通等の利便性に配慮した会場を計画して、引き続き受診の啓発に努める。また、乳がん検診においては、スタッフを女性で実施する等受診しやすい環境づくりを推進し、受診率の向上に努める。

大腸がん検診は、通年で地域巡回の市民健診会場（特定健康診査）などに検体を提出する持込方式と、検体を郵送する郵送方式を併用して実施する。

特に神戸市では、持込方式を廃止し通年の郵送方式一本化で実施をし、健診会場へ提出する手間を省くなど利便性を高める。また、インターネットを活用した受診申込も引き続き実施し、受診料の自己負担金支払いについてもキャッシュレス決済の拡大（スマホ決済）にも対応し、さらに利便性を高め、受診率の向上を目指す。

また、各がん検診では、引き続き過去の受診者に対して受診勧奨を行う。

近年、受診者数は漸減傾向にあり、新規受診者をいかに獲得するかが課題である。今後も受診率の向上を目指して、積極的な普及啓発活動や更なる利便性の改善などに努める。

②結核検診

県下の各自治体からの委託を受け、拠点会場において集団検診で実施する。市民健診との同時実施や症状があっても医療機関を受診しないハイリスク者に対する休日や夜間検診の実施、また、住所不定者や小規模事業従事者も含めた多様な生活形態への配慮と利便に工夫した検診の実施等、受診機会の確保に積極的に取り組む。

③フレイルチェック及び認知機能検診

一部自治体の市民健診会場においては、国保の特定健康診査を受診される70歳の方を対象に、加齢とともに全身の予備能力や筋力、心身の活力が低下している状態を早期発見するため、「フレイルチェック」を引き続き実施する。

また、神戸モデルとして2019年1月より開始された「神戸市認知症診断助成制度」についても、第一段階「認知機能検診」の実施医療機関として参画する。

(2) 学校保健

県下の各市町教育委員会及び大学・私立学校法人からの委託を受け、各地区医師会の協力のもと、児童生徒を対象に学校保健安全法に基づく心臓検診、腎臓・糖尿病検診、脊柱検診及び結核検診等を実施する。

当協会は、児童生徒の寄生虫卵検査・尿検査の検査体制を確立することを設立目的として発足したこともあり、児童生徒の腎臓病、糖尿病及び心臓疾患の早期発見に対する効果的な検診システムをもとに、積極的な検診実施に取り組むとともに、専門医との連携により検診精度の維持・管理を行い、県下の児童生徒の疾病予防、健康管理に寄与する。

また、教職員に対する定期健康診断、特定健康診査及び各種がん検診を実施し、各学校における健康管理の充実を図る。

(3) 産業保健

地方公共団体や一般企業等の事業所で働く人を対象に、職業性疾病予防と早期発見を目的として労働衛生のトータルサービス（健康管理・作業管理・作業環境管理）専門機関として労働安全衛生法に基づく定期健康診断・特殊健康診断や行政指導による情報機器作業健康診断等、健診・検査を実施する。

県下事業所等の地域性や健診受診時の利便性を考慮し、当協会が所有する検診車の機動力を生かした出張健診を多く実施し、働く人の健康づくりへの貢献に努める。健康管理に役立つように健康診断から得たデータを分析し、積極的に情報を提供するとともに、労働安全衛生法の改正内容等について事業所へ普及啓発を行い、労働衛生の向上に寄与する。

また、がんによる死亡者数減少を目指し、セミナーや講演会、健診会場等、様々な場面でがん検診の受診勧奨を積極的に行い、がん検診を推進する。

メンタルヘルス対策にかかるストレスチェック制度については、ストレスチェック（職業性ストレス簡易調査票）から得たデータを分析し、働く人のセルフケア、事業所のラインケアの向上に寄与して、働く人の「こころ」と「からだ」の両面から健康の管理・増進に取り組む。

（４）人間ドック

県民の疾病予防と健康増進に寄与することを目的として、人間ドックを灘区の健診センターと兵庫区健康ライフプラザ健診センターの２施設で実施する。

健診コースについては、健康保険組合連合会が指定する検査項目を充たしており、健診当日に結果説明まで実施する「半日ドック」と「１泊ドック」、検査内容を簡略化し料金設定を抑えた「２時間ドック」を基本的なコースとして提供する。また、健診センターにおいてはＣＴ装置を利用した「肺ドック」、健康ライフプラザ健診センターにおいてはＭＲ装置を利用した「脳ドック」等、目的別に設定したコースを提供する。併せて、子宮頸がん検診、マンモグラフィ検査及び乳房超音波検査、骨密度測定、腫瘍マーカー等、受診者の希望に応じて幅広く選択できる複数のオプション検査を実施する。

受診日に合わせた時期の受診勧奨や、２０２６年度より協会けんぽ加入者が人間ドックを受診される場合の補助が拡充されることに伴い、より効果的な受診案内を行うとともに、きめ細かな予約受付体制の充実、待ち時間の解消等により、多忙な勤労者や受診機会の少ない専業主婦等に対して受診機会を増やすことに努める。

さらに、日本医師会・日本臨床衛生検査技師会・全国労働衛生団体連合会・日本総合健診医学会等の外部精度管理に積極的に参加し、精度の維持向上を図るとともに、日本総合健診医学会優良総合健診施設の認定機関として、健康保険組合等の保健事業を推進する各種団体からの要望にも応えていく。

今後は健診・検査の質の標準化と付加価値向上を図るため、公益社団法人日本人間ドック・予防医療学会 健診施設機能評価の認定に向け、体制整備や運用の見直し等必要な準備を着実に進めていく。

（５）保健指導

①高齢者医療の確保に関する法律に基づく特定保健指導

国民健康保険、協会けんぽや各種健康保険組合等の被保険者及び被扶養者に対し、施設内及び健診会場に出張して特定保健指導を実施する。初回支援を個別で実施し、以後３～６ヶ月間にわたり、プログラムにそって階層化で分類された動機付け支援・積極的支援の各支援を面接・電話・レター・Ｉ

CT等で実施する。2024年4月にスタートした国の第4期特定健診・特定保健指導の改訂に合わせた早期介入・アウトカム評価を意識した支援を行う。

②労働安全衛生法等に基づく労働者の健康管理、作業管理等における保健指導

労働者が健康を保持増進しつつ、やりがいをもって仕事に取り組めるよう、健康管理担当者や産業医等と連携しながら支援を行う。事業所のニーズに合わせ健診結果の読み方、健康と睡眠の関係、栄養バランスを整える方法等、健康増進を図ることを目的とした講話・体操等を取り入れた研修会の開催、重症化予防のための個別の健診事後指導等を提案し、健康に働き続けるための支援を行う。

③メンタルヘルス事業のための保健指導

メンタルヘルス対策の充実・強化を目的として労働安全衛生法の一部改正が行われたことに伴い、主に職域からの依頼に基づき、ストレスチェック等を適正に実施し、労働者一人ひとりと集団としての職場環境改善に有効な結果の提供に努め、結果に基づいて個別支援または集団に対して支援を行う。

個別支援では主に高ストレス者に対する産業医面接勧奨や相談対応等、集団に対する支援ではストレスチェック結果を集計し講話を行う。また、継続的・計画的に取り組むことができるように、労働安全衛生マネジメントシステム（PDCAサイクル）に沿った支援を行う。

④電話等による各種相談

当協会での受診結果について、電話等で各種の健康相談に応じる。感染症等時事的な健康問題等についても可能な範囲で健康相談に応じていくことで、広く県民の安心に寄与できるように努める。

(6) 細胞診検査

①子宮頸がん細胞診

神戸市指定医療機関からの神戸市子宮頸がん検診及びその他の検診、当協会の施設内検診における子宮頸がん細胞診を実施する。事業の中心となる神戸市子宮頸がん検診においては関係機関と緊密な連絡・調整を重ねながら、効果的な検診の検査部門を担っていく。また液状検体処理細胞診（LBC）の特徴を最大限に生かし、より精度の高い検査を実施していく。

②喀痰細胞診

早期肺がん及び前がん病変、さらに胸部X線に反映困難な肺門部のがんを発見することを目的として実施している。神戸市肺がん検診において受診対象者のうち問診で必要とされた方（原則50歳以上、かつ*喫煙指数600以上）及び当協会の施設内及び事業所での肺がん検診における喀痰細胞診希望者に対し実施しているが、国のガイドラインで検診における喀痰細胞診の推奨グレードが下がったことを受け、公費での実施が廃止される方向へ見直しが進められている。

*喫煙指数＝1日平均喫煙本数×喫煙年数(過去の喫煙を含む)

(7) 腸内細菌検査

食品取扱事業所の衛生管理対策として行われている腸内細菌検査については、他の検査機関による代替性が確保されていることもあり、2023年度をもって一部撤退したが、神戸市保健所からの感染症対策に関わる緊急検査（休日対応含む）については引き続き委託を受け、保健行政の一端を担う。

検査機関としての信頼向上のため、検査精度の継続維持に努める。

(8) 作業環境測定

労働安全衛生法に規定される作業環境測定を実施し、作業環境中における様々な有害因子の存在状況を定量的に把握し、事業者による作業環境の改善並びにリスク管理の推進に寄与する。また、労働衛生のトータルサービス（健康管理・作業管理・作業環境管理）を提供できる専門機関として、健康診断部門との連携を強化し、特殊健康診断の判定と作業環境測定の評価による総合判定を実施し、作業従事者の健康確保を図るために、労働衛生管理を的確に進める事業を展開する。

事務所衛生基準規則にかかる空気環境測定については、換気や湿度保持による適切な環境管理を促し、事務室空間の快適性維持については作業効率の向上への取り組みを支援する。

マスクフィットテストでは、金属アーク溶接等作業を継続して行う屋内作業場の労働者の呼吸用保護具（マスク）が適切に装着されているかを確認すると共に正しい装着方法を説明することで、労働者が有害物質に暴露されるリスクを防ぐ。

(9) 食品検査

食品の消費・賞味期限の設定や妥当性確認のための検査を実施するとともに、科学的根拠に基づいたデータから、食品製造者に理解しやすい助言・提案を行う。

食品関連施設に対し、ふきとり検査・衛生調査を行い、現場での衛生指導や作業環境の問題点を改善へと導く助言・提案を行う。

2021年6月より、食品に携わる全ての事業者に対して「HACCPに沿った衛生管理」の制度化が、施行開始され5年を迎えようとしているが未だその運用をされていない食品事業者は多く、HACCP導入の普及・啓発に努める。

(10) 簡易専用水道検査等

水道事業者から供給される飲料水が安全に安定的に利用者に行き渡るよう、水道施設の衛生管理状況の確認検査を実施し、設置者に課せられた衛生管理を支援する。

簡易専用水道施設では、水道法の規制による簡易専用水道検査により管理の適正性を担保しており、有効容量10立方メートル以下の小規模貯水槽水道については、自治体条例等において設置者等による自己管理の徹底が図られているが、管理が不十分で定期検査を受検していない施設が多く、衛生的な維持管理が強く望まれている。引き続き定期検査受検勧奨を進めるとともに健康に影響する事例について的確な情報の提供や、利用者の立場での水道衛生管理の必要性について啓発を行う。

3. 予防医学に関する調査研究事業

(1) 調査・研究

疾患の早期診断、がん検診、保健指導等に関わるテーマで調査研究を行う。

(2) 健診・検査で得られたデータの活用

当協会の事業活動で得られた多くのデータを有効活用し、予防医学事業の進展、県民の健康保持増進に努める。

①事業年報の配付

「事業年報」を発行し、健診・検査の依頼がある地方公共団体・企業、行政機関、医療機関、保健機関等県下へ広く配布するとともにホームページにも掲載し、情報提供を行う。

②健診・検査データ等の活用

当協会が運用している健診システムで取り扱う健診・検査データを以下のとおり活用する。

(ア) 集計データの活用

「事業年報」において、年度単位で健診・検査データを活用する。集計データは、様々な条件に基づき、集団の傾向を観察できるとともに、個人データとの比較から個人の健康状態等の推測が可能であり、健診条件等の見直しや適切な保健指導の検討に活用していく。

(イ) 統計解析や調査研究結果に基づいた判定や保健指導の実施

検査データの積み上げにとどまらず、問診データ等の諸条件に基づく複合的な統計処理を行い、生活習慣、疾病等（既往歴等）、更には性格的要素等と健診・検査データの関連性を見出し、実際のデータから得られた知見を基に、個々に適した保健指導・栄養指導を目指す。

(ウ) 統計解析や研究により取得した情報を広く提供する。

複合的な統計処理や研究から得ることのできた情報等について、講演会や学会での発表や広報誌に掲載する等、健康管理に役立つ情報を積極的に広く発信する。

4. 健康支援のための健康増進事業及び健康教育事業

(1) 健康づくり事業

○健康科学セミナー 3回開催予定

県民の健康づくりや疾病の予防・啓発を目的として、疾病の予防や治療について各分野の専門家を講師に招き、県民向けの講演会を開催する。

(2) 健康づくり支援事業

勤労者や各種団体等を対象に健康づくりプログラムを提案すると共に、保健師・管理栄養士・健康運動指導士等の専門スタッフを派遣し、健康づくりに寄与するイベントの企画・実践を行う。

《設備機器等の整備》

業務の改善を目的として、設備機器等の整備を行う。

- ①ネットワーク関連通信機器等更新
- ②内視鏡関連機器一式
- ③PACSレポーティングシステム改修
- ④胸部X線撮影FPDシステム ※車載用
- ⑤液状処理細胞診前処理装置一式
- ⑥内視鏡洗浄消毒装置（2台）
- ⑦胸部X線骨組織透過処理システム
- ⑧圧着機
- ⑨ホルター心電計
- ⑩検体遠心機

事業計画明細

(疾病予防のための健康診断及び検査事業・健康支援のための健康増進事業及び健康教育事業)

事業名	種別	内容	受診者数 (件数・回数)		
			2026年度	2025年度	増減比 (%)
疾病予防のための健康診断及び検査事業	地域保健	特定健康診査等	56,200人	54,000人	104.1
		特定保健指導	1,900人	1,950人	97.4
		胃がん検診	13,800人	14,500人	95.2
		乳がん検診	10,000人	12,000人	83.3
		子宮頸がん検診	3,100人	3,050人	101.6
		肺がん検診	9,800人	9,800人	100.0
		大腸がん検診	76,000人	85,000人	89.4
	結核検診	40,000人	43,000人	93.0	
	学校保健	心臓検診	58,000人	66,000人	87.9
		脊柱検診	23,500人	25,500人	92.2
		腎臓・糖尿病検診	264,000人	320,000人	82.5
		結核検診	55,000人	60,000人	91.7
	産業保健	定期健康診断等	135,000人	130,000人	103.8
		(再掲：協会けんぽ予防健診)	(26,000人)	(28,000人)	92.9
		特殊健診	17,400人	21,000人	82.9
		ストレスチェック	15,500人	17,000人	91.2
		労災二次健診	90人	90人	100.0
		特定保健指導・保健指導	1,300人	1,500人	86.7
		がん検診(巡回・施設)*	119,750人	116,850人	102.5
	人間ドック	人間ドック	7,800人	7,500人	104.0
		脳ドック	130人	200人	65.0
	細胞診	子宮がん細胞診	39,000件	40,000件	97.5
		喀痰細胞診	1,500件	1,900件	78.9
	生活衛生等	作業環境測定	900件	1,050件	85.7
		食品検査	1,500件	4,500件	33.3
		簡易専用水道検査等	3,500件	3,700件	94.6
	健康支援のための健康増進事業及び健康教育事業	健康づくり事業(健康科学セミナー)	240人 (3回)	160人 (2回)	150.0
健康づくり支援事業(講師派遣・予防教室)		40回	40回	100.0	

※産業保健がん検診 受診者数内訳

年度	胃がん	乳がん	子宮頸がん	肺がん	大腸がん	合計
2026年度	28,000人	12,500人	9,000人	250人	70,000人	119,750人
2025年度	26,000人	13,000人	9,500人	350人	68,000人	116,850人